

## コロナワクチン騒動から考える 自己研鑽と卒後研修

日本病院薬剤師会理事  
愛知県病院薬剤師会会長  
名古屋大学医学部附属病院教授・薬剤部長  
山田 清文 Kiyofumi YAMADA



3年ぶりに行動制限のないGWが終わりました。友人や家族との旅行を楽しまれた方も多いと思います。3回のワクチン接種証明があれば、指定国以外の場合、帰国後の自宅待機が不要となったことから、海外旅行を楽しまれた会員もいらっしゃるかもしれません。コロナ対策の切り札となったmRNAワクチンですが、ネット上にはワクチン接種を勧める専門家の意見だけでなく、「賢明な人はワクチンを接種しない」、「当面私は打たない」というコメントも寄せられています。信じ難いことですが、他人のワクチン接種を妨害する団体まであるようです。

もし一般の方からワクチン接種について相談を受けた場合、薬の専門家である薬剤師としてどう回答すべきか、と悩んでいる会員も多いのではないのでしょうか。1回目のワクチン接種の時と3回目あるいは今後検討される4回目では、新型コロナウイルス感染症に関する医療者の知識と経験、利用可能な治療薬の有無、感染後の重症化率など、医療環境や感染状況が大きく変化しています。その時々状況により回答は変わると思いますが、何れにしても自信をもって回答するためにはワクチン接種賛成派と慎重派の科学的根拠を理解しなければなりません。そのためには、例えば獲得免疫の機構について改めて勉強し直す必要があります。治験や市販後調査の結果、レギュラトリーサイエンスについて学ぶことも重要です。こうした自己研鑽を怠っていると、「リスクは人それぞれ異なるので一概には言えない」等の曖昧な回答になりがちです。しかし、質問者はネット検索などで得た情報を信じており、何より回答する薬剤師の態度から自信のなさを感じ取ります。薬剤師に対する不信感に繋がるかもしれません。

仕事をしながら一人で自己研鑽し、薬剤師としての資質向上を図ることは容易ではありません。免許取得直後の新人薬剤師なら猶更です。目的に応じた研修プログラムと指導者、並びに到達度の評価が必要です。一方、「薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究」のなかで実施された当会会員施設へのアンケート調査の結果では、1ヵ月以上のカリキュラムに基づく新人教育を実施していると回答した病院診療所(薬剤部)はわずかに30%でした。新人教育は実施しているが、カリキュラムは作成していないということかもしれませんが、それでは新人教育の評価や見直しも困難です。上記の調査研究班からは薬剤師の卒後研修の骨子案が提案され、これを踏まえて日本病院薬剤師会では卒後研修モデル事業を実施しています。新人教育(卒後研修)に不安のある会員施設におかれましては、調査研究班の報告書に目を通し(厚生労働科学研究成果データベース(niph.go.jp))、研修カリキュラムを検討していただければ幸いです。